

「図書館と人工知能への入口」(概要)

2025年5月 IFLA (国際図書館連盟) により作成・公表

IFLAが2024年8月に公表した「インターネット宣言2024」(IFLA Internet Manifesto 2024)の附属資料として作成。
AIの利点とリスクを評価・議論する際に考慮すべき事項や想定される事例のシナリオの一覧を図書館員に向けて提供するもの。単独の決定ツールではなく、他の図書館や地域社会との議論を促す補助資料として位置付けられている。

➤ 図書館の役割

AIを開発・導入する／トレーニングに関与する／利用者助言を行う／データ・アルゴリズムリテラシーを推進する／組織内助言をする／社会的規範や規制を提言する

➤ 期待される利点

デジタル化、メタデータ作成、推薦・要約・翻訳・分析・対話型サービス、業務自動化、アクセシビリティ向上など。

➤ 想定されるリスク

誇張・誤情報・バイアス・文化的多様性の侵害・誤用(偽情報・検閲)・不平等・透明性欠如・プライバシー／著作権問題・利害関係者不在・人間の主体性喪失・雇用影響・環境負荷・巨大企業の集中と国際的競争。

➤ 自己評価のための14問

利点の妥当性、出力精度、バイアス対策、文化的配慮、悪用可能性、公平性、透明性、データ管理、著作権、地域の関与、利用者の主体性、雇用・環境影響、第三者開発者などの事業モデルなどを点検する具体的設問を提示。

➤ 実践シナリオ

利用者支援、職員の業務利用、メタデータ自動化等のケースと議論のための注釈・運用上の助言等。

IFLA (国際図書館連盟) による「図書館と人工知能への入口」

※以下は機械翻訳によるものです。内容の適切な解釈については、必ず原文も参照願います。

序文

AI は、知識へのアクセスと創造という図書館の主要な価値を促進する可能性を持つ有望な技術群です。しかし、AI はまた深く議論を呼ぶ技術でもあり、現在のいくつかの発展は実際に害を生み出しています。AI の利点は公平に分配され、責任を持って達成され、広い意味で持続可能であることが不可欠です。

図書館の価値と倫理は、社会における AI の責任ある利用に強く関連しています。図書館の価値観はすべての人への知識への平等なアクセスと表現の自由を促進することを目指します。これらは開放性と説明責任を主張すると同時に、個人のプライバシー、組織の機密性、知的財産権を尊重します。

ある意味で「AI」という用語は非常に広義であり、機械学習や大規模言語モデルのような特定技術について話す方が有用な場合もあります。しかし、公共の議論や政策はより一般的な用語中心のため、図書館も立場を示すことが重要です。本書では、生成系 AI に限定せず、よく確立され馴染みのある複数の情報技術を包含する広義の意味で AI を定義します。

本ドキュメントの前提は、専門職として知識へのアクセスと創造に対する AI の潜在的利点を責任ある方法で実現し、有害な側面には異議を唱える義務がある、というものです。本書は、AI の利点とリスクを評価・議論する際の主要な考慮点を図書館員に提供します。内容は回答というより問いの形をとる一覧であり、技術の幅広さと急速な変化を反映して最終的な判断は各自で行う必要があります。

本書は倫理的な AI 利用の評価を支援するためのツールですが、それを唯一絶対の解決策として用いることは推奨しません。最終決定をする意思決定ツールとして設計されていないため、個別の文脈に応じ同僚、同業組織、他の図書館と幅広く議論することを強く推奨します。

図書館の AI 対応は、IFLA の他の方針や図書館にかかわる AI に関する声明、そして国際的な AI 倫理・規制の議論の重要性を認識するものです。変化の速い領域であるため、本書は頻繁に更新することが見込まれます。

これらのガイドラインは、2025-2026 年にかけて公開される一連のテーマ別公刊物の一部であり、2024 年改訂の IFLA インターネット・マニフェストの公表に続くものです。

図書館の役割

図書館は、責任ある AI 利用の定義に向け他の利害関係者と協働します。図書館が影響力を行使しうる 6 つのレベルは次のとおりです。

1. 図書館サービスのための AI を開発またはライセンスすること
2. (公共の利益のための) AI の開発・訓練にインプットする知を提供すること
3. 利用者に対して安全で責任ある AI サービスの選択と使用について助言すること
4. 利用者や公衆の情報リテラシー・広義のデジタルリテラシーにおいて、データにおけるアルゴリズムや AI リテラシーを含め強調して示すこと
5. 図書館が属する広い枠組みの組織の中での AI 利用について助言すること
6. 社会における責任ある AI 利用と適切な規制について提言すること

AI によって期待される恩恵

2025 年において「AI」という単語は生成系 AI と密接に結びついて考えられていますが、本ガイドラインでは、従来から図書館で用いられてきた複数のデジタル技術を含む総称として AI を扱います。責任ある開発によって、AI は次のような知へのアクセスをよりよくすることが期待されます。

- デジタル化 (テキスト、手書き文書、音声、マルチメディア、視聴覚資料の機械可読化)
- 大規模なコンテンツの記述 (メタデータ作成を含む)
- 推薦、応用、パーソナライズ、フィルタリング
- 要約と統合
- データ分析
- 翻訳
- 相互利用性の向上

さらに、AI アプリケーションは図書館のサービス提供を改善し、定型業務の自動化により業務を簡素化し信頼性を高めることも期待されます。例えば障害のある利用者等へのアクセシビリティなど、特定の利用者層に対する支援の充実が考えられます。

図書館員は、AI による恩恵を、公平で責任ある持続可能な方法で最大化する一方で、根本的に非倫理的な利用には異議を唱える責務があります。

図書館関連で想定される AI の実装例

- 図書や論文の推薦システムの実装
- 検索プロセスや研究ライフサイクル全体における、生成系 AI ツールの責任ある利用を支援すること
- AI 拡張サービスへのアクセス提供
- 図書館コレクションへのアクセス向上のための AI 利用

- レファレンスに対応する図書館・組織レベルのチャットボットの開発
- Retrieval Augmented Generation (RAG) アプリケーションの開発
- 訓練モデルのためのデータ提供
- 文書の要約や文案作成、研修計画作成など専門業務における生成系 AI の利用

AIにより起こりうるリスク

こうした利点を公平で責任ある持続可能な形で実現するためには、AI 技術の進展に伴って繰り返し発生する問題について対処する必要があります。主なものは以下の通りです。

1. 実証された利点の誇張表現：図書館の分野で費用対効果が実証された使用例は限られており、単なる誇張もある。AI よりも単純で適切かつ公平な解決策がある場合、それらが見落とされがちで、実際に問題を起こしている例もある。
2. 不正確で誤解を招く情報：AI は確率計算に基づいて機能するため、推薦やフィルタリングで誤りが生じることがある。生成系 AI は、古い日付の情報、もっともらしいが誤った情報の提示、出典の欠如や捏造が知られている。特に正確性が重要な状況では重大な懸念となる。
3. 偏見：不適切なアルゴリズムからのバイアスに加え、学習データの管理不足により有害なステレオタイプを再生産する。これにより特定のコミュニティにおいて AI を利用しづらくなる場合がある。
4. 文化的・言語的多様性や多様な知識体系への脅威：排他的に開発された AI は植民地主義的な権力構造を再生産し、図書館の脱植民地化を阻害するリスクがある。
5. フェイク、誤情報、検閲のための AI 悪用：悪意ある者に AI が渡れば、情報文化に損害を与えうる。
6. 不平等なアクセス：デジタルアクセスやスキルが限られる者は、AI の設計に配慮がなければ不利になる。AI システムのコストを原因に、特権的な国家・機関・利用者のみアクセスが集中しがちである。
7. 説明可能性と透明性の欠如：AI は完全に理解するのが困難であり、しばしばバックグラウンドで目立たずに動作する。多くの AI 企業は学習データの内容など重要事項について透明性を欠く。AI が誤りを起こした場合の責任が不明瞭なことがある。AI がいつ・どのように使われているかは、利用者に対して常に明らかにされるべきである。
8. プライバシーとセキュリティへの脅威：現状の AI 開発では、利用者からのデータを、十分なインフォームドコンセントやオプトアウト無しに抽出して学習に用いる場合がある。データの収集、利用、販売は利用者の安全を損なう可能性がある。
9. 著作権と著作者の権利へのリスク：著作権のある資料で AI が学習するケースがあるが、必ずしもそこに正当なアクセス権が伴っているとは限らず、ケースによっては違法となることもありうる。データ学習にあたり、例えば図書館における機関リポジトリからのスクレイピングに伴う、データ等に対する隠れたコストも存在し得る。

10. 利害関係者の不十分な関与：AI が、その対象となる幅広い利害関係者を十分に関与させずに開発される傾向がある。
11. 人間の主体性への脅威：AI は生活を容易にする一方で、人間の技能や自信の喪失、技術依存をもたらすことがある。AI は目に見えない形で使われることが多く、人間の選択肢を減らしてしまう可能性がある。
12. 雇用の代替や搾取的雇用関係の脅威：AI は既に創造的専門性の代替として利用されている。AI 開発は、低賃金で不安定な労働者に依存し、データラベリングやフィルタリングの過程で、時にトラウマ的な作業を行わせることがある。
13. 重大な環境影響：デジタル技術は機器の製造や輸送に伴う資源、AI の訓練と利用に必要な電力による環境負荷がある。特に生成系 AI はデータセンターの冷却に多くの電力と水を要する。
14. 規制されていない大手テック企業の過度な力と有害な国際的 AI 軍拡競争の台頭：人類全体の利益のために開発されるよりも、説明責任が不十分な手に多くの面が委ねられている。AI は地域的かつ文化的考慮のある方法で開発されるべきであり、オープンで非独占的なアプローチが推奨される。

図書館が AI について尋ねるべき 14 の問い

AI サービスを図書館で利用する際、(状況とサービスに応じて) 自らで評価するための問いは次の通りです。これらの問いは、AI のリスクと利点の評価を支援する目的で作られています。後述のシナリオで示すように、グループでの活用やゲーム化して議論を活性化することも可能です。

1. 知へのアクセスと創造に関する恩恵の性質は何か？それらを提供するための労力やコストは、図書館の優先事項や代替手段と比べて正当化されるか？
2. AI の出力情報の精度、最新性、公平性の水準はどの程度か、またその精度のレベルは利用時にどのように説明されるか？
3. 問題のある偏見やステレオタイプを前提とした出力の再生産を、最小化するための安全手段は何か？
4. 多様な知識体系や文化・言語の多様性は AI によってどのように保護・促進されるか？
5. 悪意ある者の利用が、誤情報や検閲を助長していないか？
6. AI による利益は、デジタル不平等やアクセシビリティの観点を含めて公平にもたらされているか？
7. アプリケーションは社会的に有意義な手段で明示されたものとなっているか？AI が誤った場合の責任は誰にあるのか、その影響について定義されているか？
8. 利用者のデータはどのように管理され、プライバシーとセキュリティが確保されているか？
9. AI サービスは、不正にアクセスされた作品を利用していないか？(つまり、学習デー

タの取得は合法か)

10. 地域や社会の利害関係者が開発と実装にどのように関与しているか、コミュニティのデータ主権（自らや文化資産に関するデータの所有、管理、規定の権利）を維持できているか？
11. 利用者が AI とのやり取りにおいて主体性を保持できるか？利用者の AI に対する技能や信頼への影響は何か？
12. 人間の雇用に対する影響はどうか（職の置き換えや不安定労働を含む）？
13. AI サービスのライフサイクル全体における環境影響（電力需要や水使用など）はどの程度か？
14. 開発者が第三者である場合、事業モデルと責任ある運営手段はどのようなものか？

シナリオ

以下のシナリオは、専門能力開発の文脈で、AI に関する議論や演習に利用・適応できるよう作成されています。これらは従来のシナリオを拡張するものであり、個人での見直しだけでなく、グループでの議論と学習のきっかけとして用いることを推奨します。

図書館での活用例としては、ラウンドテーブルで参加者が各シナリオを読み、異なる視点で問いに答えるなどがあります。ファシリテーションにおける工夫としては、1) 質問の意図を全員が理解していることを確認する、2) 参加者には、役割や部門、分野において多様な集団を含める、3) 役割や視点を割り当て多角的に検討する、4) 主要な考察事項や不確実性を文書化する、5) 自らの経験や他図書館における利用方針と比較する、などがあります。

シナリオ 1：利用者による、生成系 AI の責任ある活用を支援する

研究によれば、利用者行動において、生成系チャットボットが一次情報源として用いられる重要な行動シフトが起きている。これらの利用者による共通したコメントとしては「早くて簡単。効率が上がった。」である。特にニューロダイバーズ（神経多様性）のある利用者にとって重要な場合もある。利用者は情報精度や技術依存に関するいくつかの問題は認識しているものの、広い社会的課題としてはあまり関心がないように見える。

一部の利用者はより高度な機能のために有償モデルに対価を払っている。専門的な AI を文献レビューやデータ分析に使いたいと望む者もいる。

図書館のデータベースの利用が減少しているといういくつか証拠もあり、利用者は無料チャットボットの使いやすさに軍配を上げている。図書館側としては、データベースにおける AI などの新機能（有償の付帯機能）を契約する余力がない。

- ・どのような倫理的・価値的な問題があるか？
- ・何をすべきか？
- ・このシナリオはどれほど現実的か？現状において問題が移り変わる側面があるか？

注釈（ガイドラインの観点からの考察）

1. 利点の性質：利用者は知識へのアクセスが向上したと感じているが、図書館の役割の一部が置き換えられている可能性がある。図書館は役割を再定義できるかもしれない。
2. 精度・最新性・公平性：利用者は生成系 AI の情報品質問題を部分的にしか認識していない。多様なアプリの拡大に伴い問題は広がる。
3. バイアスの安全措置：バイアスの問題は精度問題ほど顕在化しないことがある。図書館は利用者教育を開発し、バイアスを識別し回避するプロンプト改良を支援する必要がある。
4. 文化的・言語的多様性の推進：スタッフは文化的表現の偏りに関する AI バイアスを認識する教育資料を作り、プロンプト改善を行う。
5. 悪意ある利用の助長：該当性があるか検討すべき。
6. 公平性：特定のサービスを推奨することは不平等を減らす一助となる。
7. 透明性と責任：誰が AI の誤りの責任を負うかを定義する必要がある。
8. データ保護：利用者はデータ保護問題について知らされているが、生成系 AI の文脈でのすべての含意を考慮していない可能性がある。
9. 著作権とコンテンツ制作者の扱い：利用者は自身や著作権を持つコンテンツ（要約や翻訳のためのアップロードなど）に関する問題を教育される必要がある。
10. 地域社会関与とデータ主権：利用者はこれらの問題に関する教育が必要かもしれない。
11. 利用者の主体性：効率化は実感するが、技能や創造性、主体性への広範な影響を評価する必要がある。
12. 雇用と労働条件：利用者はこの問題にある程度気づいているかもしれない。
13. 環境影響：社会の認識は高まっている。図書館は持続可能性に対する自らのコミットメントと整合させるべきである。
14. 第三者開発者の事業モデル：利用者は特に大手テック企業に関するこの問題の教育を必要とする可能性がある。

シナリオ 2：図書館員による生成系 AI の利用

あなたは管理職として、職員の一部がメール作成、資料作成、文書の要約・翻訳、レファレンスへの初期対応などの業務に生成系 AI を利用していることが増えている。その過程で有用なスキルを身につける者もいる。

一方で、生成系 AI の精度や「倫理的問題」（環境影響等）を理由に AI の利用を拒否する職員もいる。

研修を計画し、職員に実践させ、場合によっては AI 利用に関するポリシーを作成しようとしている。

- ・どのような倫理的・価値的問題があるか？
- ・何をすべきか？

- ・このシナリオはどれほど現実的か？現状において問題が移り変わる側面があるか？

注釈（ガイドラインの観点からの考察）

1. 利益の性質：職員の AI 利用は内部効率と対外的な情報アクセスの両面で利益をもたらすが、他の質問の答えが示すように見えにくい影響も考慮する必要がある。
2. 精度と説明：職員は AI 生成情報の品質確認に注意すべきであり、効果的なプロンプトや一般的指針を作成することが有用かもしれない。適用外とすべき利用もあるかもしれない。
3. バイアス対策：職員はバイアス検出訓練を必要とする可能性がある。
4. 文化的配慮：出力を文化的偏りの観点で評価する訓練が必要かもしれない。
5. 悪用：考慮すべき問題である。
6. 公平性：すべての職員が生成系 AI を効果的に使えるよう研修が必要かもしれない。
7. 透明性と責任：図書館は生成系 AI の利用による誤りについて利用者から責任を問われる可能性があるため、その含意を検討すべきである。
8. データ管理：職員が図書館や利用者に関するデータを入力する場合、懸念が生じ得る。
9. 著作権：生成系 AI が作成した画像の利用などに関して著作権問題が生じる可能性がある。
10. 地域社会関与とデータ主権：従来の生成系サービスに代わる、より責任ある開発参加型の選択肢が存在するか検討すべきである。
11. 利用者の主体性：意思決定の喪失や技能低下を避ける配慮が必要。
12. 雇用影響：より責任ある労働実践を持つ代替サービスの検討があり得る。
13. 環境影響：環境記録の良い代替サービスの存在を検討する。
14. 第三者開発者の事業モデル：社会的影響に配慮したアプローチを持つ代替開発者の存在を検討する。

シナリオ 3：図書館資料のメタデータ作成を支援するための AI 利用

ある図書館が、第三者の AI 提供者とパイロットプロジェクトを検討しており、AI でメタデータ作成を支援しようとしている。当面の目的は、膨大な書籍やその他情報資源の目録作成のバックログの解消である。ただし、特別コレクションや研究データの大規模デジタルコンテンツに拡張する可能性もある。他機関との議論では、メタデータ作成の一部しか自動化が容易でなく、質のチェックは引き続き職員が行う必要があると示唆されている。

一部の職員はこのプロジェクトを強く疑っており、メタデータ品質の著しい低下を招き、図書館が全面的な自動化の道を歩むきっかけになると主張している。

- ・どのような倫理的・価値的問題があるか？
- ・何をすべきか？
- ・このシナリオはどれほど現実的か？現状において問題が移り変わる側面があるか？

注釈（ガイドラインの観点からの考察）

1. 利益の性質：バックログ解消という利点は明らかだが、新規採用者を雇うなど従来の解決策もある。より単純な技術で同等の利点を得られる可能性もあり、検討が必要。
2. 精度・公平性：メタデータの精度に対する影響を評価する必要がある。
3. バイアス対策：他の文脈で開発された AI が多様な視点を適切に表現できない重大なリスクがある。
4. 文化的配慮：ワークフローに地域コミュニティによる出力検証を組み込み、職員は文化的偏りを批判的に評価する能力を求められる。
5. 悪用：該当するか検討すべき。
6. 公平性：利益が公平に提供されるかを検討する。
7. 透明性と責任：図書館は AI の利用方法について透明にし、誤りに対して合理的な責任を持つべきである。
8. データ管理：利用者データの管理が問われる場合がある。
9. 著作権：訓練データとして利用されるコンテンツの制作者に関する配慮が必要。
10. 地域社会関与とデータ主権：幅広い利用者グループをプロジェクトに関与させることが不可欠である。
11. 利用者の主体性：利用者や職員の技能・自信への影響を評価する。
12. 雇用影響：既存職員の役割が簡素化されることで専門性や地位の喪失につながるかもしれない。これらの問題についての相談をプロジェクトの中心に据えるべきである。
13. 環境影響：AI 提供者から持続可能性に関する説明を求めるべきである。
14. 第三者開発者の事業モデル：潜在的パートナーの倫理指針を図書館として評価すべきである。

行動への転換

本ガイドラインは出発点にすぎませんが、含まれる問いとシナリオは図書館での AI の役割について、批判的思考と協働的な意思決定を促すように設計されています。活用形式は、それぞれの図書館が選ぶ手段に価値があると認識し、構造化された議論、会議、非公式な対話、方針の評価、地域社会への関与など、多様な使い方を提案します。

そのため、これらのガイドラインがあなたの現場でどのように活用されたかを知りたいのです。本ガイドラインは、決定や会話の指針になりましたか？どのような形式で実施しましたか？実施後どのような反応やフィードバックが出ましたか？

皆様の経験は、本文書の実際の現場での影響を理解し、将来的な改善に不可欠です。ご感想、課題、アイデアをお寄せいただければ幸いです。皆様のコメントは、より応答性が高く包括的で有用なツールの形成に役立ちます。



IFLA


Entry point to

Libraries and AI


Internet Manifesto Annex I

May 2025





AI is a promising set of technologies with the potential to promote some of libraries' principal values around knowledge access and creation. However, it is also a deeply controversial technology, and some current developments are actively creating harm. It is essential that any benefits of AI are equitably distributed, responsibly achieved and in the widest sense sustainable.



Library values and ethics are highly relevant to the responsible use of AI in society. They seek to promote equal access to knowledge for all and the right to free expression. They argue for openness and accountability and yet also respect individual privacy, organisational confidentiality, and intellectual property rights.

In some ways the term AI is very broad and often it may be more useful to talk about specific technologies such as machine learning or large language models. However the wider public debate and public policy is centred on the more general term, and so it is important that libraries also position themselves on it. We are therefore defining AI here in a broad way to encompass some well established and familiar technologies, not solely generative AI.

The premise of this document is that as a profession we have a duty to ensure the potential benefits of AI for knowledge access and creation are achieved in a responsible way and that harmful aspects are challenged. The document provides librarians with a list of key considerations in evaluating and discussing the benefits and risks of AI. It is intended to be a concise, helpful tool which informs professional debate around AI, primarily in the form of a set of questions rather than answers, which ultimately will also need to reflect the breadth and rapid evolution of the technologies.

While this document is intended to be a tool to support librarians in the assessment of ethical AI use; we do not recommend using it as a one step solution to defining its possible uses and applications definitively. It is not designed to serve as a standalone decision-making instrument. Because of that, we strongly encourage individuals to engage in broader discussions with colleagues, peer-organisations and other libraries to ensure context-sensitive approaches to AI use.

Libraries' response to AI will recognise the importance of IFLA's other policies^[1], other library sector statements on AI^[2] and the wider international debate about AI ethics and regulation^[3]. Given the speed of change in this domain we expect to have to update it frequently.

These guidelines are part of a series of thematic publications to be released in 2025-2026 and that follow the publication of IFLA's revised Internet Manifesto in 2024.

The library's role

Libraries will work with other stakeholders to define responsible AI use.

They can exercise influence at six different levels:

1. Developing or licensing AI for library services
2. Inputting to the development and training of (public interest) AI
3. Advising library users on the choice and usage of safe and responsible AI services
4. Highlighting data, algorithmic and AI literacy as a dimension of information and wider digital literacy among users and the public
5. Advising on the use of AI within the wider organisation within which the library sits
6. Advocating for responsible uses of AI in society and appropriate regulation

The possible benefits of AI

In 2025 the term AI is closely identified with generative AI, but for the purposes of these guidelines we are using it as an umbrella term for multiple digital technologies, some of which have been used in libraries for some time, and which when developed responsibly have potential benefits to access to knowledge, through:

- Digitisation, such as turning text, handwritten text, oral, multimedia and visual media into machine readable forms
- Description of content at scale, including metadata creation
- Recommendation, adaptivity, personalisation and filtering
- Summarisation and synthesis
- Data analysis
- Translation
- Interactivity

In addition, AI applications have potential to improve library service delivery and make some library operations simpler and more reliable through automation of routine tasks.

AI also has potential to offer benefits to particular populations of users, for example through enhancing accessibility such as for disabled users.

Librarians have a responsibility to maximise the benefits of AI for access to information, in an equitable, responsible and sustainable way - as well as to challenge uses that are fundamentally unethical.

Possible library related applications include:

- Implementing a library book or article recommendation system
- Supporting users' responsible use of generative AI tools in the search process, as well as other processes across the research across the lifecycle
- Providing access to AI-augmented services
- Using AI to enhance access to library collections
- Developing a library or organisational level chatbot to answer reference questions
- Developing a Retrieval Augmented Generation (RAG) application
- Providing data to train models
- Using generative AI in the accomplishment of professional tasks such as summarizing texts or drafting documents and training plans

The possible risks of AI

Achieving these benefits equitably, responsibly and sustainably can only be realised if the recurrent issues with AI technologies are addressed. These include:

1. **Over-statement of proven benefits and hype.** There remain limited use cases in the library field with demonstrated cost benefit. Some claims are simply hype. There can be simpler, better and fairer solutions to problems than AI that might be overlooked because of the hype. Harm is being created by some uses.
2. **Inaccurate and misleading information.** AI works on calculations of likelihood. Often this results in errors such as in recommending or filtering. Generative AI has well known problems in terms of out of date, plausible but incorrect information, lack of citation of sources and the invention of sources. In contexts where accuracy is critical this is a key concern.
3. **Bias.** As well as bias arising from inappropriate algorithms, AI outputs can reflect uncontrolled bias in training data. They can reproduce damaging stereotypes, which in turn can alienate some communities from using AI.
4. **Threats to cultural and linguistic diversity, and respect for diverse knowledge systems.** AI developed in non-inclusive ways increases the risk of reproducing colonial power structures and undercutting library efforts to decolonise collections and practices.
5. **The abuse of AI for disinformation, misinformation and censorship.** In the wrong hands AI can have damaging impacts on information cultures.
6. **Inequitable access.** Those with limited digital access, skills or confidence may be disadvantaged unless consideration is given to their needs in the design of systems. Given the cost of AI systems they are often only accessible to privileged states, institutions and users.
7. **Lack of explainability and transparency.** AI is inherently hard to fully understand and is often operating in the background unnoticed. Many AI companies lack transparency about critical issues such as what training data was used. It can be

unclear who is responsible if AI makes errors. When and how AI is being used should always be transparent to the user.

8. **Threats to privacy and security.** There is a pattern in current development of AI being trained partly through extracting data from users without informed consent or opt outs. The collection, use and sale of data may compromise user security.
9. **Threats to copyright and author rights.** There is a pattern in current development of AI being trained on copyright material. There is not always legitimate access to the original data. It is also against the law in some jurisdictions. There may also be hidden costs of how AI is trained, such as the costs to libraries of data being scraped from library repositories.
10. **Lack of consultation of stakeholders.** There is a pattern of AI being developed without full involvement and consultation with the widest range of stakeholders, including those who may be represented through AI.
11. **Threats to human agency.** AI can make life easier, but can also lead to a loss of skills and confidence, creating technology dependence. AI is often being used in invisible or opaque ways, which can result in the reduction of human choice.
12. **Threats of job displacement or exploitative employment relations.** AI is already being used by some employers to displace creative expertise. AI development often relies on low paid, precarious workers to perform difficult, even traumatic aspects of data labelling and filtering.
13. **Significant environmental impacts.** Digital technologies have environmental impacts through the materials and power used to manufacture and transport devices and the power demands to train and use AI. AI, especially, generative AI makes significant demands on power and fresh water to cool datacentres.
14. **Undue power of unregulated, monopolistic Tech companies and the emergence of a damaging international AI arms race.** Rather than being developed for the benefit of all humankind in sustainable ways, many aspects of the development of AI rest in unaccountable hands. AI should be developed locally, in culturally sensitive ways. Open, non proprietary approaches are to be preferred.

14 Questions librarians should ask about AI

In seeking to ensure the benefits of AI while combatting the risks, librarians may ask the following questions about a specific AI service that might be used by a library (depending on their context and the service in question).

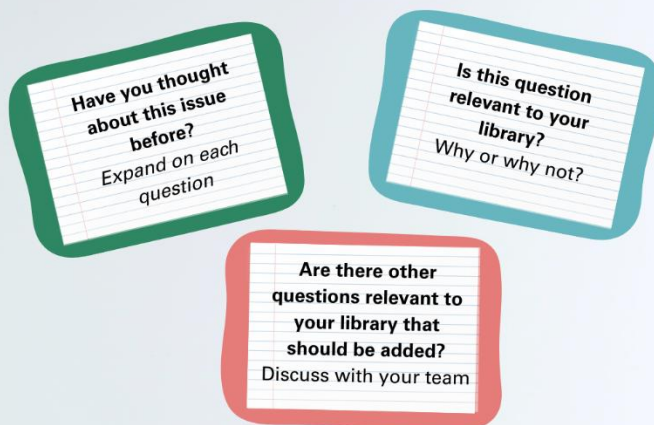
The questions are meant to be used as a self-assessment tool to evaluate the possible risks and benefits of AI use within the library. The image below the questions can be used for a group game or dynamic to address these questions in a more interactive way.

1. What is the nature of the benefits concerning knowledge access and creation? Is the effort/cost of delivering them justified in relation to library priorities and alternative solutions?
2. What is the level of accuracy, timeliness and impartiality of information output by AI and how is the level of accuracy explained at the point of use?

3. What safeguards are in place to minimise bias and the reproduction of damaging stereotypes and assumptions?
4. How are diverse knowledge systems and cultural and linguistic diversity protected/promoted through the AI?
5. Is the availability of AI to some bad actors promoting misinformation or censorship?
6. Are the benefits available equitably, including aspects of digital inequality and accessibility?
7. Is the application transparent in a socially meaningful way? Is it defined who owns responsibility for errors made by AI and their impacts?
8. How are users' data managed to ensure their privacy and security?
9. Has the AI service been developed in a way that has not made use of illegitimately accessed works?
10. How have local and societal stakeholders been (or will they be) involved in the development and implementation of the AI, ensuring the right of communities to data sovereignty (i.e. to maintain ownership, control, and governance over data about themselves and their cultural heritage)?
11. How is it ensured that users retain agency in their interactions with AI? What is the impact on skills and confidence of users?
12. What are the impacts on human employment, including potential job displacement or the use of precarious labour?
13. What is the environmental impact of the whole lifecycle of the AI service, including power demands and water use?
14. If the developer is a third party, what is their business model and their approach to responsible operations?

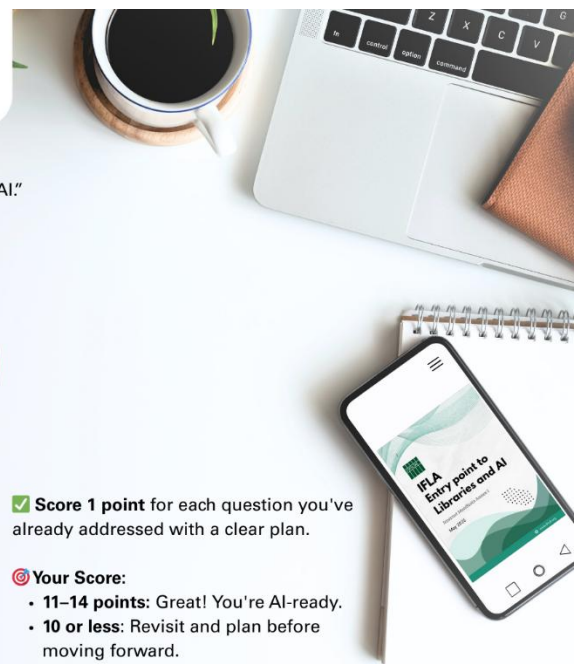
Let's Talk About AI in Libraries!

- Step 1:**
Check out the 14 questions in page 5: "Questions Librarians Should Ask About AI"
- Step 2:**
Gather your team and use these 3 cards to kick off a discussion:



✓ **Score 1 point** for each question you've already addressed with a clear plan.

- 🎯 **Your Score:**
- **11–14 points:** Great! You're AI-ready.
 - **10 or less:** Revisit and plan before moving forward.



Scenarios

The following scenarios have been created to be used or adapted for discussion in the context of professional development. They extend an earlier set of scenarios which remain relevant^[4,5]. We recommend using them not only for individual reflection but also as catalysts for collective discussion and learning.

We encourage librarians to use them for interactive activities within their libraries, for instance while organising a roundtable discussion where participants read through each scenario and respond to the questions from different perspectives.

Our tips for facilitation include: **1)** Ensuring that everyone understands the nature of the questions asked, **2)** Including a diverse group of participants across roles, departments and even disciplines, **3)** Assigning roles or viewpoints to help explore the scenario from diverse angles, **4)** Documenting key reflections and areas of uncertainty, **5)** Comparing your experiences with other libraries who have made use of the guidelines.

Scenario 1. Supporting library users to adopt generative AI responsibly

A study of library user behaviour suggests that some significant shifts are happening linked to generative AI. Many users are turning to free generative AI chatbots as a first source of information. A common comment is: “it’s easy and quick. It’s making me more efficient”. Some users appear to find them particularly valuable, for example, neurodiverse users. Users are aware about some issues around information accuracy and technology dependence; but do not seem very aware or concerned about wider social issues.

Some users are also paying for access to better models for greater functionality. Some are asking to use specialist AI for tasks such as literature reviewing and data analysis.

There is also some evidence that the use of library databases is falling, with users saying that they just don’t match up to the ease of use of free chatbots. At the same time, you cannot afford to subscribe to all the new features appearing in library databases.

- What ethical and value issues do you identify?
- What would you do?
- How realistic is the scenario? Are there aspects of the current situation that shift the issues?

Notes

1. What is the nature of the benefits to access to knowledge? Is the effort/cost of delivering them justified in relation to library priorities and alternative solutions? Users feel they are benefiting from enhanced access to knowledge, but it appears that the library role is partly displaced. The library may be able to reposition itself.
2. What is the level of accuracy, timeliness and impartiality of information output by AI and how is the level of accuracy explained at the point of use? The evidence suggests users are only partly aware of some of the information quality issues with generative AI, especially when one considers the widening range of apps in use.
3. What safeguards are in place to minimise bias and the reproduction of damaging stereotypes and assumptions? Issues of bias may be less apparent to users than problems with accuracy. The library will need to develop educational materials that help users identify these issues and improve prompts to avoid them.
4. How are diverse knowledge systems and cultural and linguistic diversity promoted? Staff will develop educational materials on recognizing AI biases related to cultural representation and improving prompts to avoid them.
5. Is the availability of AI to some bad actors promoting misinformation or censorship?
6. Are the benefits available equitably, including aspects of digital inequality and accessibility? Recommending specific services would tend to reduce inequality .
7. Is the application transparent in a socially meaningful way? Is it defined who owns responsibility for errors made by AI and their impacts?
8. How are users' data managed to ensure their privacy and security? While users have been made aware of data protection issues, they may not have considered all the implications in the context of generative AI.
9. How are the creators and owners of content used to train AI consulted, recognised and rewarded? Users may need educating on this issue, particularly as it might relate to uploading their own or copyright content such as for summarisation or translation.
10. How have or will local and societal stakeholders been involved in the development and implementation of the AI, ensuring the right of communities to data sovereignty, that is to maintain ownership, control, and governance over data about themselves and their cultural heritage? Users may need educating in this issue.
11. How is it ensured that users retain agency in their interactions with AI? What is the impact on skills and confidence of users? Users perceive AI to make them simply more "efficient" but what are the wider impacts on their skills, creativity and agency?
12. What are the impacts on human employment, including potential job displacement or the use of precarious labour? Users may be somewhat aware of this issue.
13. What is the environmental impact of the whole lifecycle of the AI service, including power demands and water use? There is growing social awareness of this issue. The library will want to ensure its commitment to sustainability is consistent in its use of AI.

14. If the developer is a third party, what is their business model and their approach to responsible operations? Users may well need educating in this issue in relation to services particularly those from big tech companies.

Scenario 2. Library staff use of generative AI

As a manager you are increasingly noticing that some of your staff are using generative AI to help them perform tasks such as writing emails, creating marketing material, summarising and translating documents and even as a first stop to answering reference queries. In the process they are gaining useful skills.

Other staff refuse to use generative AI for anything. They cite issues such as accuracy and “ethical issues”, including environmental impact.

You are planning a workshop to bring staff practices into alignment and perhaps to generate a policy for AI use.

- What ethical and value issues do you identify?
- What would you do?
- How realistic is the scenario, are there aspects of the current situation that shift the issues?

Notes

1. What are the nature of the benefits to access to knowledge? Is the effort/cost of delivering them justified in relation to library priorities and alternative solutions? It appears that the library is benefiting from staff use of AI both in terms of internal efficiencies and potentially end user access to information, at no apparent cost. But consideration should be given to the less obvious impacts as revealed by answers to other questions.
2. What is the level of accuracy, timeliness and impartiality of information output by AI and how is the level of accuracy explained at the point of use? Staff should be careful about checking the quality of information generated by AI. It may be useful to create generic guidelines and help with prompts to maximise effective use. Perhaps there are some uses that should be considered out of scope.
3. What safeguards are in place to minimise bias and the reproduction of damaging stereotypes and assumptions? Staff may need training in detecting such biases.
4. How are diverse knowledge systems and cultural and linguistic diversity promoted? Staff may need training in how to evaluate outputs for cultural biases and design prompts to counteract them.
5. Is the availability of AI to some bad actors promoting misinformation or censorship?
6. Are the benefits available equitably, including aspects of digital inequality and accessibility? Training may be needed to ensure all staff have the skills to make use of generative AI effectively.

7. Is the application transparent in a socially meaningful way? Is it defined who owns responsibility for errors made by AI and their impacts? As the library may be responsible in the eyes of its users for errors arising from its use of generative AI, the full implications should be considered.
8. How are users' data managed to ensure their privacy and security? This could be a concern if staff are inputting data about the library or even about users.
9. How are the creators and owners of content used to train AI consulted, recognised and rewarded? There may be alternatives to the familiar generative AI services that have more responsible approaches. There are copyright issues potentially around the use of generative AI produced images such as for marketing.
10. How have or will local and societal stakeholders been involved in the development and implementation of the AI, ensuring the right of communities to data sovereignty, that is to maintain ownership, control, and governance over data about themselves and their cultural heritage? There may be alternatives to the familiar generative AI services that have more responsible approaches to the involvement of stakeholders in AI development and implementation.
11. How is it ensured that users retain agency in their interactions with AI? What is the impact on skills and confidence of users? There may be an issue with the degradation of staff skills through the use of AI. Particular care should be taken to avoid the loss of decision-making to AI systems.
12. What are the impacts on human employment, including potential job displacement or the use of precarious labour? There may be alternatives to the familiar generative AI services that have better models of labour practices.
13. What is the environmental impact of the whole lifecycle of the AI service, including power demands and water use? There may be alternatives to the familiar generative AI services that have a better environmental record.
14. If the developer is a third party, what is their business model and their approach to responsible operations? There may be alternatives to the familiar generative AI services that have more responsible approaches to the social impact of AI.

Scenario 3. Using AI to support metadata creation for library material

A library is contemplating a pilot project with a third party AI provider to explore how AI can assist in the creation of metadata. The immediate driver is to deal with the huge backlog of books and other resources for cataloguing. However, there is thought to be potential to extend this to large-scale, digital content in special collections and research data. Discussions with other institutions indicate that only part of the metadata creation process can be easily automated, and that it will continue to require staff to check quality.

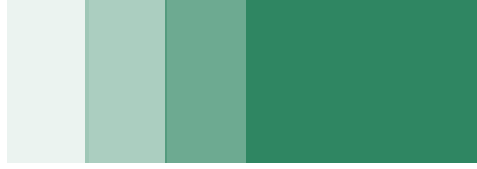
Some staff view the whole proposed project with suspicion: they say it will mean a significant loss of metadata quality and suggest it is setting the library on a pathway towards wholesale automation.

- What ethics and value issues do you identify?
- What would you do?

- How realistic is the scenario, are there aspects of the current situation that shift the issues?

Notes

1. What are the nature of the benefits to access to knowledge? Is the effort/cost of delivering them justified in relation to library priorities and alternative solutions? The benefit to access to knowledge needs clarification. There are conventional approaches to solving the backlog, such as hiring a new member of staff. There may be simpler technologies that can achieve benefits with fewer implications.
2. What is the level of accuracy, timeliness and impartiality of information output by AI and how is the level of accuracy explained at the point of use? The impact on accuracy of metadata needs to be evaluated.
3. What safeguards are in place to minimise bias and the reproduction of damaging stereotypes and assumptions? There seems to be significant risk that AI developed in another context will not adequately represent diverse perspectives.
4. How are diverse knowledge systems and cultural and linguistic diversity promoted? Workflows will seek to include community verification of AI descriptions. Library staff will need to critically evaluate AI outputs for cultural biases and Western-centric perspectives.
5. Is the availability of AI to some bad actors promoting misinformation or censorship? Is AI promoting misinformation or censorship?
6. Are the benefits available equitably, including aspects of digital inequality and accessibility?
7. Is the application transparent in a socially meaningful way? Is it defined who owns responsibility for errors made by AI and their impacts? The library needs to take reasonable responsibility for errors and be transparent about how AI is being used.
8. How are users' data managed to ensure their privacy and security?
9. How are the creators and owners of content used to train AI consulted, recognised and rewarded?
10. How have or will local and societal stakeholders been involved in the development and implementation of the AI, ensuring the right of communities to data sovereignty, that is to maintain ownership, control, and governance over data about themselves and their cultural heritage? It is essential that a wide range of user groups are consulted within the project.
11. How is it ensured that users retain agency in their interactions with AI? What is the impact on skills and confidence of users?
12. What are the impacts on human employment, including potential job displacement or the use of precarious labour? Existing staff roles may be simplified but this could imply a loss of expertise and status. Consultation about these issues should be central to the project.
13. What is the environmental impact of the whole lifecycle of the AI service, including power demands and water use? Assurances should be sought from the AI provider about aspects of sustainability.

- 
14. If the developer is a third party, what is their business model and their approach to responsible operations? The library will have a view on the ethical compass of their potential partner.

An additional resource to support discussion would be Lee's checklist^[6].



Turning insight into action

While these guidelines are just a starting point, the questions and scenarios included in it are meant to spark critical thinking and collaborative decision-making about the role of AI in library settings. We offer a set of recommendations on how to use the scenarios, but we are also aware of the value that lies in the way each library chooses to use it, whether through structured discussions, meetings, or informal chats, policy reviews or community engagement.

Because of this, we would like to know how these guidelines were applied in your context.

Did they help guide a particular decision or conversation?, What was your chosen format? and What feedback emerged from the discussions that took place?

Your experiences will be vital for understanding the real world impact of this resource and to improve future versions. We invite you to reach out to share your reflections, challenges and ideas. Your comments will help us shape a more responsive, inclusive and useful tool for the upcoming versions.

References

[1] FAIFE (2020) IFLA Statement on Libraries and Artificial Intelligence, <https://repository.ifla.org/items/8c05d706-498b-42c2-a93a-3d47f69f7646>

IFLA (2012) IFLA Code of Ethics for Librarians and Other Information Workers (Long Version), <https://repository.ifla.org/items/6c3d64ed-4eb8-45e4-bb60-9e178aa94cbf>

IFLA (2017) IFLA Statement on Digital Literacy <https://repository.ifla.org/items/f47dc600-7bbb-4ae4-b59e-646cc154ba47>

IFLA (2024) IFLA Internet Manifesto (2024 Update) <https://repository.ifla.org/items/69397ea2-f4f3-49bc-a5ef-342260f7a54c>

IFLA (2025) IFLA Statement on Core Principles on Libraries and Copyright <https://repository.ifla.org/handle/20.500.14598/3928>

[2] Association of Research Libraries (2024) Research Libraries Guiding Principles for Artificial Intelligence, <https://www.arl.org/resources/research-libraries-guiding-principles-for-artificial-intelligence/>

[3] Jobin, A., Ienca, M., & Vayena, E. (2019). The global landscape of AI ethics guidelines. *Nature machine intelligence*, 1(9), 389-399.

Corrêa, N. K., Galvão, C., Santos, J. W., Del Pino, C., Pinto, E. P., Barbosa, C., ... & de Oliveira, N. (2023). Worldwide AI ethics: A review of 200 guidelines and recommendations for AI governance. *Patterns*, 4(10).

[4] Cox, A. (2021). Ethics Scenarios Of Artificial Intelligence For Information and Knowledge Management And Library Professionals AFTER FEEDBACK. The University of Sheffield. Dataset. <https://doi.org/10.15131/shef.data.17081138.v1>

[5] Cox, A. (2022). The ethics of AI for information professionals: Eight scenarios. *Journal of the Australian Library and Information Association*, 71(3), 201-214.

[6] Lee, B. C. G. (2025). The “Collections as ML Data” checklist for machine learning and cultural heritage. *Journal of the Association for Information Science and Technology*, 76(2), 375-396.